

<<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>>

令和5年度 病害虫発生予察注意報第1号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和5年度 病害虫発生予察注意報 第1号

1. 病害虫名： タマネギべと病、ネギべと病
2. 対象作物： タマネギ、ネギ
3. 発生が予想される地域： **県下全域**
4. 発生程度： **多**
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 4月下旬の中晩生タマネギでの発生調査では発生圃場率が75.0%（平年：17.3%）、発病株率は28.6%（平年：15.0%）であり、発生量は多かった（第1表）。
 - 2) 本病原菌は気温13℃～20℃で降水量4mm以上で感染が活発になり、今後1カ月の気象はこの条件を満たす可能性があるため、さらに発病が拡大するおそれがある。

第1表 中晩生タマネギにおけるべと病の発生状況

発生圃場率(%)				発生圃場における発病株率(%)			
	2月下旬	3月下旬	4月下旬		2月下旬	3月下旬	4月下旬
2013	0	0	0	2013	—	—	—
2014	0	0	5.6	2014	—	—	1.0
2015	0	0	27.8	2015	—	—	3.8
2016	38.9	66.7	82.4	2016	21.9	13.6	52.9
2017	0	5.6	0	2017	—	0.1	—
2018	0	0	0	2018	—	—	—
2019	0	0	0	2019	—	—	—
2020	0	0	0	2020	—	—	—
2021	0	0	26.7	2021	—	—	15.8
2022	0	15.4	30.8	2022	—	0.3	1.6
2023	0	0	75.0	2023	—	—	28.6
平年値	3.9	8.8	17.3	平年値	21.9	4.7	15.0

6. 防除対策
 - 1) 圃場を見回り、発生を確認した場合は直ちに治療効果のある薬剤を散布する。
 - 2) ネギのべと病は、タマネギのべと病と同一の病原菌であるので、今後定植が多くなるネギでは予防的に薬剤散布する。
 - 3) 排水不良は発病を助長するので、圃場の排水を良くする。
 - 4) 薬剤散布を行う場合には耐性菌の発生を回避するため、同一系統薬剤の連用は避ける。



写真1 タマネギ葉のべと病症状

長楕円形～紡錘形で黄白色の大型のぼやけた病斑を形成する

近隣農地の作物等や住宅地等での農薬飛散防止の注意が必要です。
風の状況を確認し、飛散の恐れがあるときは散布作業を中止しましょう

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojou/index.html>

